

まえがき

本書は、広島大学地域経済研究センターと地域経済研究推進協議会および中国経済連合会、広島経済同友会の主催で、平成5年10月18日・19日の両日、広島県民文化センターにおいて「札仙広福・バージョン3」をテーマに開催しました第5回研究集会の報告書です。

今回の研究集会も、例年通り二日間にわたって開催されました。初日は、基調講演とパネル討論会を行い、二日目は、中国および四国地域を代表する七つの民間シンクタンクから、地域経済に関する研究をご報告頂きました。

初日の基調講演とパネル討論会では、「札仙広福」をテーマにご討論を頂きました。札仙広福とは、札幌・仙台・広島・福岡のことですが、わが国の国土構造を考えるにあたって、札仙広福をどのように位置づけるか、その役割や課題などに大きな関心が寄せられています。

広島で開催される札仙広福に関するシンポジウムは、平成3年以来、今回で4回目になります。第1回は、西澤潤一東北大学長を始めとする4都市の大学研究者にお集まり願い、第2回は、平岡敬広島市長など札仙広福4都市の市長、第3回は、札仙広福の地元新聞社4紙の編集局長、そして今回の第4回では、札仙広福のそれぞれで活躍されている経済人の方々のご討議を頂きました。そしてこのうちの第2回目は、われわれの研究センターも協力しましたが、主催は中国新聞社でしたので、われわれの主催としてはこの第2回目を除く残りの3回ですから、今回の討論を「バージョン3」と致しました。

わが国の中央集中は、今日、ますます進行しております。こうした中で、わが国が均衡ある発展を遂げるためには、地方が発展しなければなりません。そして地方が発展するためには、地方の中核都市である札幌・仙台・広島・福岡の、いわゆる「札仙広福」の役割が極めて重要であると考えます。

今回のシンポジウムは、中央の経済同友会からこの問題に重要なご提言を公表された諸井虔・前地方活性化委員長に基調講演をお願いしました。さらに札仙広福の4都市からそれぞれ経済人をお招きました。すなわち北海道経済同友会から石黒直文常任幹事、仙台経済同友会から藤崎三郎助代表幹事、広島経済同友会から森本弘道代表幹事、そして福岡経済同友会から石井幸孝幹事の方々です。諸井委員長を始め、これら経済人の方々

は、世界的にも全国的にも、かつ地域においても幅広い経済活動をされており、これまでの3回のシンポジウムにおける討論をふまえて、広い視野からバージョンアップした議論を展開されました。なお残念ながら仙台経済同友会の藤崎三郎助代表幹事は、平成6年10月に急逝されました。大変貴重なご意見を賜りましたことに感謝申し上げますとともに、お悔やみ申し上げます。

研究集会の二日目は、中国地方を代表する六つの民間シンクタンク、それに四国地方の代表的なシンクタンクである株式会社地域経済研究センターから、地域経済に関する研究をご報告頂き、それぞれ予定討論者と活発なご討論を賜りました。こうした意見交換によって、大学および民間シンクタンク相互の交流が密になり、地域経済を研究する諸機関のネットワークができるものと期待しております。

地域の皆様方のご協力により、研究集会には初日450名、2日目80名に上る多数の方々のご参加を賜り、極めて有意義な成果をあげることができました。

本誌を作成するにあたり、基調講演をお願いした諸井虔委員長、パネル討論のパネリスト、座長、研究報告者および討論者の方々、その他関係各位のご協力に深く御礼申し上げます。

平成7年2月

広島大学経済学部附属
地域経済研究センター長 横本 功